



ふるえがお



古江小 HP QR コード



令和8年3月10日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

すてきな6年生を送る会でした

2月27日に6年生を送る会を開催しました。この日のために、5年生は実行委員会を中心に各担当に分かれて、授業時間だけでなく休み時間も使うなど、相当な時間をかけて準備をしてきました。もちろん、1～4年生も歌、呼びかけ、対決（長縄跳び・九九）、プレゼント、クイズ、表現運動など、それぞれが趣向を凝らし、6年生に感謝の気持ちを伝えるよう心を込めた出し物でした。6年生の合奏では、キーボードの音が出ないハプニングもありましたが、アンコールでもう一度演奏してもらい、頑張ってきた成果を全員が発表することができました。

1年前に、6年生を送る会を企画・運営してから、学校のリーダーとして活躍してくれた6年生。自分たちで考え、行動することを大切にして取り組んできたことで、古江小学校がどんどんよくなりました。その姿は、在校生にもしっかり伝っています。会の終わりの校長の話では、「6年生がこの1年間、在校生のために一生懸命頑張ったからこそ、この送る会で在校生がしっかりお返しをしてくれて、すてきな会になっている。それはあなたたちの素晴らしい力だよ。」と伝えました。これから先も、古江小学校、統合後は義務教育学校の文化として引き継がれていくと信じています。



1～5年生が、6年生に感謝の気持ちを込めた発表、6年生からの礼の合奏。いずれも素敵でした。



6年生から新リーダーの5年生へのバトンパス。大きなバトンには6年生全員からのメッセージが書かれていました。



第3回学校運営協議会報告

2月26日に本年度最後の学校運営協議会を開催し、学校評価を中心に、今年度1年間の学校経営についてご意見やご助言、感想をいただきました。

○学校評価について

- ・全体的に高評価を得ているので、継続して取り組んでほしい。
- ・教職員による評価が、自分たちの取組についての評価となっていて、こどもに対してどのような結果となったのかがわからない。主語を児童にした質問内容とし、児童や保護者の評価と比較できるものにしてほしい。

○ご意見等

- ・こどもが事象に対し心身に苦痛を感じたのであればいじめとして認定してほしい。
- ・すまいる教室が、教室に入りづらいこどもたちが安心して過ごすことのできる居場所として、今後も大事にしてほしい。
- ・こどもたちの様子を中学校とも共有し、湖北白鳥学園として連携しながら取り組んでもらうことで、中1ギャップを解消してほしい。

6名の委員の皆様には、この1年間様々な学校行事に足を運んでいただくとともに、地域においてもこどもたちの活動の場をたくさんつくっていただきました。古江のこどもたちの健やかな成長を願い、陰に陽に支えてくださっていることに改めて感謝申し上げます。来年度は長江地区の方にも参画していただき、さらにお力添えをもらう予定です。

学校評価については、tetoruにて保護者の皆様には配信しています。

荷物を整理していた時に、自分が教員1年目（昭和63年）に市内教職員に配付する冊子に書いた文書が出てきました。以下一部紹介します。

今のこどもたちに欠けているもの。「自分の感動を素直に表現すること」「物事に本気で取り組むこと」「他人を思いやること」。これは、マスメディアの発達に伴い、テレビ・新聞・雑誌等を媒介として、それらのことが、カッコ悪いとされたり、競争社会においては他人のことなど構ってはられない等の現代の風潮が、そのままこどもたちに反映されてきたものであろう。（後略）

なんとも上から目線の偉そうに書いた内容で恥ずかしくなります。難しそうな言葉を並べて、とがった文章を書けば賢そうに見えるだろうという甘い考えも感じられます。その後見事に鼻っ柱を何度も折られ、様々な経験を積み重ねていくことで、今のような好々爺(?)に成長したのかと思います。

また、ここには約40年前の社会情勢も書かれています。メディアの中心は、テレビ・新聞・雑誌とあり、令和のこどもたちが使っている、YouTube、スマホ・タブレット、ゲーム機などは想像すらできないことでした。パソコン自体もあまり普及しておらず、テレビのような大きさのワードプロセッサが先端な状況だったと思います。

昭和の競争社会を危惧してゆとり教育になり、その弊害が指摘されると授業時数は大幅に増やされました。今は教職員の働き方改革にあわせて授業時数の削減が叫ばれているなど、社会情勢に教育界が翻弄されていることをひしひしと感じます。

教職員のものさしは、時代に合わせて常にバージョンアップが求められていること、その対応に真摯に向き合っていることをご理解いただくと幸いです。